

2026年1月6日に島根県東部で発生した地震に関する見解

島根大学総合理工学部 向吉秀樹

1月6日10:18に島根県東部でM6.4の地震が発生し、その後約10分間隔でM5を超える地震が2回発生しました。

M6.4地震の震央付近には布部（ふべ）断層帯と呼ばれる活断層があり（今泉ほか編, 2018），この地震は布部断層の東端付近で発生しました（下の図をご参照ください）。

布部断層は、主要活断層帯や地域評価対象の活断層に選定されておらず、活動度や最新活動時期に関する調査が行われていない活断層です（主要活断層帯、地域評価対象の活断層の詳細については下記サイトをご参照ください）

https://www.jishin.go.jp/.../long.../regional_evaluation/

M6.4の地震発生から10分後に、M6.4の震央から約2km東でM5.1の地震が発生し、さらに約10分後の10:37には、M6.4の震央から約3.5km西側でM5.4の地震が発生しました。

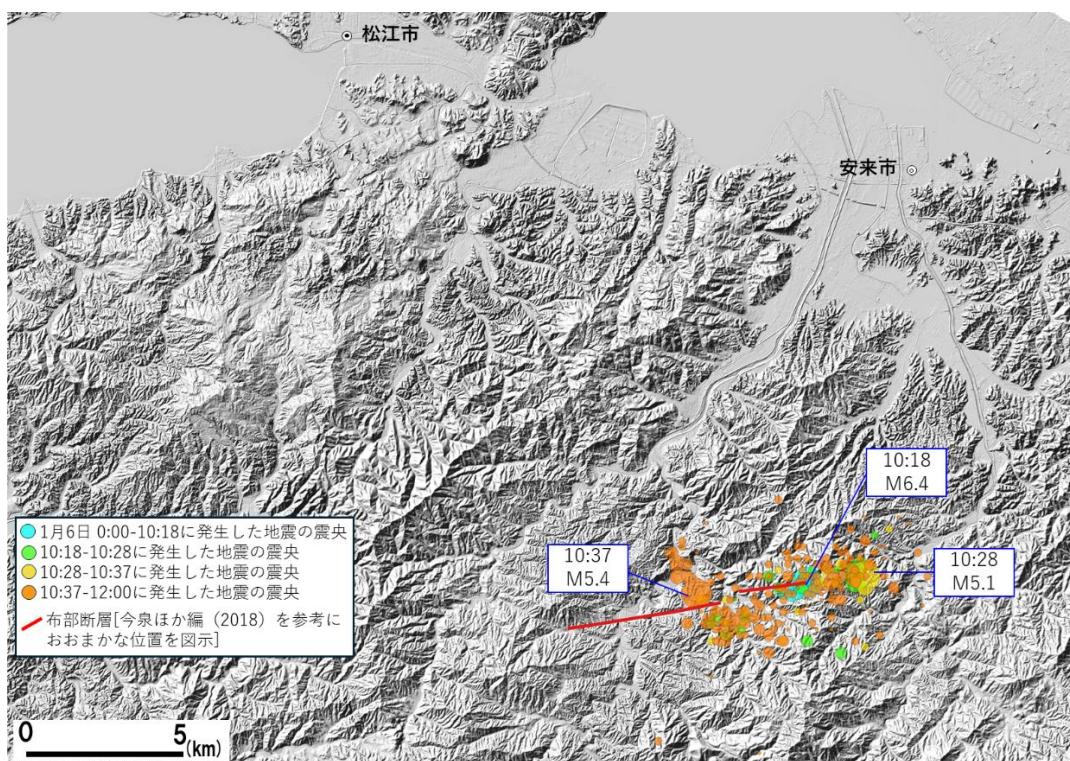
地震後の震央分布をみると、余震が概ね布部断層に沿うように発生していることから、M6.4の地震は布部断層の活動によって生じた地震だと考えられます。

その後10:28に発生したM5.1の地震は布部断層東端よりさらに東側で発生していることから、地形的に判読される布部断層よりも、地下では東に数km断層がのびていると考えられます。

また10:37に発生したM5.4の地震後には余震が北西-南東方向にのびていることから、10:37に発生した地震は、布部断層の活動ではなく、M6.4の地震に誘発された北西-南東走向の別の断層によって生じた地震だと考えられます。

規模の大きな地震が発生すると、周辺の岩盤にかかる力のバランスが変化し、数日後に周辺の別な断層による誘発地震が発生することは度々ありますが、今回は短時間の間に別の断層の地震も発生し、M5クラスの地震が立て続けに生じたと考えられます。

今回の地震では、布部断層の西側は動いていないと考えられ、しばらく注視する必要があると考えています。



1月6日0時～12時に発生した地震の震央と周辺の活断層。地震データは気象庁一元化震源データを使用。背景の基図は地理院陰影起伏図を使用。